

授業科目名称 : 航空業論

授業コード : 42008

授業科目英文名称 : Air Transportation Business

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2	2	選択
担当教員			
竹田 文雄（実務経験のある教員）			
展開方法	講義		
ナンバリング	CB209		
添付ファイル			

ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標	評価手段・方法	評価比率
専門力	・ 航空事業・航空運送業界の現状とこれからの新たな事業展開についての理解と説明。 ・ 航空便の運航以外の航空会社の事業についての理解と説明。	・ 随時試験 ・ 随時試験	30% 30%
情報収集、分析力	・ FSCとLCCについての理解と説明。	・ 随時試験	20%
コミュニケーション力	・ 学内外での授業への積極的な参画、およびアクティブラーニングの実践。	・ 授業参画度	20%
協働・課題解決力			
多様性理解力			
出席		受験要件	
合計		100%	

授業のねらい	航空事業の歴史を概観し、その発展と進化を学修する。航空事業の歴史、航空業の概要、911（ナインイレブン）のインパクト、LCC（ローコストキャリア）の定着による航空運送業界の新しい動き、FSC（フルサービスキャリア）の運営形態の変化、航空機を用いない新規事業の開拓等を講義する。 ・航空運送業界の発展史を踏まえた上で、航空会社の運営、業務、サービスの変遷の実像を理解する。 ・COVID-19収束後の航空会社の在り方、競合事業者の存在についても考察していく。			
アクティブラーニングの類型	②⑨			
評価基準及び評価手段・方法の補足説明	随時試験 2 0 点 （情報収集・分析力の達成度。ポートフォリオ小テスト。授業中に適宜実施予定。） 随時試験 6 0 点 （専門力の達成度。ポートフォリオ小テスト。授業中に適宜実施予定。） 授業参画度 2 0 点 （授業課題への取り組み姿勢、質問・コメント等の有無とその回数。） 諸々のフィードバックは、ポートフォリオを用いて、または授業時間内に適宜実施していく。			
授業概要	担当教員の旅行業実務経験と知見を踏まえた実践的授業である。戦後日本の航空業界の歴史を踏まえた上で、既存大手航空会社、地域発航空会社、およびLCCに代表される新規航空会社の現状を概観する。また顧客サービスの向上、収益の向上、そして安全運航の堅持の手法を学び、航空運送業の全体像の把握と理解を進める中で、航空運送業の今後の課題を考察していく。また航空関連事業への就活についてのアドバイスも適宜織り込んでいく。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は1 8 0 分。			
教科書・参考書・指定図書	教科書：特に定めない。 参考書：『第3版 最新航空事業論』井上泰日子 日本評論社 指定図書：『日本の航空産業』洪武容著 中公新書			
授業外における学修及び学生に期待すること	資料（レジュメ）は、ポートフォリオに格納するので必要に応じて適宜参照すること。担当教員からの配布は行わない。また授業中に投影するスライドは、ポートフォリオには掲載しない。毎回の授業ではメモを取ることを習慣づけること。航空運送業界の競争を含めた内部環境を学ぶことにより、関連産業も含めた航空業界全体への興味や関心の向上を期待する。また実践的な学びとすべくトピックス解説等も適宜行いつつ授業を進めていく。なおCOVID-19収束以降の航空会社および航空運送業の役割も考察していく。 他の学生に迷惑をかけないように受講すること。			
授業計画	回	テーマ	授業の内容	予習・復習
	1	はじめに、航空事業とは	・ 授業の進め方のガイダンス。 ・ 航空運送業の概観・特性等について。	予：シラバス読込み。 復：航空運送業についての再確認。
	2	航空会社の各種業務内容	・ 航空会社内の各業務内容の把握。 ・ 各業務が担う、それぞれの役割の理解。	予：航空会社の各部門の業務内容を考える。 復：各業務内容の再確認。
	3	航空運送業の歴史（1）	・ 第二次世界大戦後の民間航空発展。 ・ 航空自由化に至る航空運送業界の歴史。	予：シカゴ条約の概要を確認する。 復：2 0 世紀航空運送業の変遷を再確認。

	4	航空運送業の歴史（2）	・航空自由化への動きについて。	予：航空自由化の意味を考える。 複：オープンスカイと航空自由化の再確認。
	5	航空運送業の歴史（3）	・日本の航空業界の成長経緯について（1）。	予：JL/NH/BC/GK/MM/6J/7G/OCは何を示すか？ 複：45/47体制の再確認。
	6	航空運送業の歴史（4）	・日本の航空業界の成長経緯について（2）。 ・第3の航空会社、国内線・国際線の現状について。	予：第3の航空会社の意味を考える。 複：LCCまでの登場の時代背景を再確認。
	7	LCCの出現とその影響（1）	・LCC成立の時代背景について。 ・LCCのビジネスモデルについて。	予：LCCとFSCのWEBサイトを確認する。 複：LCC/FSCの相違点は？
	8	LCCの出現とその影響（2） 911インパクト	・FSCの戦略の変遷について。 ・911発生のインパクトについて。	予：FSCの対LCC戦略について考える。 複：FSCの対LCC戦略の変遷を再確認。
	9	航空会社のサービス向上の手法（1）	・航空会社の顧客獲得戦略について。 ・マイレージ戦略について。 （ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。）	予：マイレージの利便性を考える。 複：マイレージ戦略再確認
	10	航空会社のサービス向上の手法（2）	・航空会社の「ロイヤルティ（再利用意向）」「他者推奨意向」「顧客満足度」向上の為の手法について。 （ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。）	予：サービスとは何か？を考える。 複：本日の要点の再確認。
	11	航空会社の路便戦略	・路線、便数、発着時間、運行機材等の決定手法について。	予：長崎空港発着各社の運航状況を確認する。 複：路便設定の再確認。
	12	鉄道事業との比較検討	・競合運輸機関についての考察。 （ゲストスピーカー・実務家の招聘を予定。）	予：航空機以外の移動手段について考える。 複：本日の要点の再確認。
	13	航空会社の販売戦略（1）	・航空会社の販売、WEBシフトと利便性について。 ・新たなサービス戦略、新規事業について。	予：航空会社のWEBサイトを再確認する。 複：販売手法の再確認。
	14	航空会社の販売戦略（2）	・航空会社の販売、収入の最大化に向けた手法について。（レベニューマネジメントなど）	予：レベニューマネジメントの意味を調べる。 複：販売手法の再確認
	15	総復習と総括	・航空業界の”いま”と”これから”について。 ・学修内容をあらためて概観する。	予：14週までの授業全体のレビュー。